

まえがき

2010年度地理学野外実習は、2010年9月25日～29日までの4泊5日の日程で実施した。昨年度同様、最初の2日間は巡検、その後3日間は調査実習である。

参加者は、羽生、小岩井、細萱、松澤、丸山、中澤、武居、樋口、清水（恒）、敦賀谷、谷屋、清水（龍）、西田、澤崎、鈴木の学生15名と、ゲストとして信州大学教育学部卒業生の小松知恵氏、横瀬鑑氏、引率の廣内先生を合わせた18名であった。

夜行バス、夜行寝台列車サンライズ出雲、自家用車等で現地をめざし、集合は9月25日の8:30にJR福山駅集合である。

初日の巡検では、鞆の浦にていろは丸展示館等の見学、因島にて水軍城や海岸地形を観察し、三原の山根旅館で一泊した。2日目は呉にて大和ミュージアム、海上自衛隊呉資料館を見学、フェリーで宮島に渡り厳島神社を参拝した。2日とも天候が大きく崩れることもなく、充実した巡検となった。

調査実習の拠点は広島市で、京橋旅館に宿をお世話になった。9月26日の夜は、郷土のタコ料理を堪能し、翌日より、各自決定し準備を進めていたテーマに沿って、各々調査を実施した。調査は、活断層、台風による浸水被害と水害対策、城下町の水害と治水対策などの自然や防災、歴史災害に関わる分野から、酒造業や製塩業の歴史、伝統産業、観光、町作など、経済、文化、社会分野まで様々なテーマに取り組んだ。野外実習は本年度で3回目の取り組みであり、上級生は一昨年、昨年の反省を生かし、下級生は先輩方のお力添えをいただきながら、現地調査や聞き取り調査などを行った。事前、事後と指導会を設け、廣内先生の丁寧なご指導の下、4年生は就職活動、卒業論文の調査、3年生は教育実習の合間をぬって調査準備、資料収集と分析、まとめをした。本報告書はその成果をまとめたものである。各自の努力の成果を見て頂けたら幸いである。

最後に、調査にあたってお忙しい中、地図や資料収集、聞き取り調査にご協力いただいた行政機関、団体、地域の皆さまに心から御礼申し上げ、ここに感謝の意を表します。

平成24年2月

清水龍来（信州大学教育学部自然地理学研究室3年）

2010 年度地理学野外実習報告Ⅲ

広島

【目次】

まえがき

宮島における砂州地形の形成について 1
鈴木綾香

岩国断層帯大竹断層におけるカタクレーサイトの確認 4
丸山陽央

広島市における高潮災害を考える 7
清水龍来

宮島における 2004 年台風被害の実態と住民の意識 17
谷屋俊

活断層上の土地利用規制に関する住民の意識調査 —ニュータウン春日野の場合— . . 25
中澤 尚寛

広島城下町の形成と治水事業 34
西田ひかり

「近世広島平野における干拓と人々の暮らし」 42
細萱京子

広島県竹原市における製塩業盛衰の歴史 45
松澤希

広島県における明治期の酒造業 —三浦仙三郎の業績と西条の酒造業発展の経緯— . 48
樋口達也

宮島における外国人観光客に対する施策とこれからの課題 59
敦賀谷勇人

広島県カキ養殖産業の分布と特徴 67
小岩井直人

伝統的な地場産業、仁方のやすりを探る 70
澤崎裕太

竹原市町並み保存地区の形成と現状 75
清水恒作

広島湾における親水事業の実態と課題 83
武居正剛

あとがき